

沖電気争議と

二人の写真家

一九七八年十二月二十二日。寒い冬の朝。沖電気の工場の前で「沖電気は指名解雇を撤回し、ただちに就労させろ」と、職制のバリケードに対峙してシブレヒコールを叫び続ける被解雇者。この日から、沖電気争議の勝利の日まで、百カ月間も、自費で写真を撮り続けてくれた藤田庄市さん、森住卓さん。ありがとう。

二人で撮った二万五千枚の写真の一枚、一枚は、争議団の生活と闘いの絵に見える。が実は、二人のカメラマンの人間としての良心が、写し出されているように思う。沖電気争議に対するおもしろい、団員に対する愛情があつたからだと思う。

「イガグリ頭のお兄ちゃん」と争議団から呼ばれた藤田庄市さんは、夏になればスイカをかかえ、「オイ食べな」と沖電気争議団の事務所へくる。そして、たれとでもおもしろく話をする。藤田さんが撮った妊娠中の女子団員の写真は、非道な指名解雇を世の中に知らせると同時に、支援を集める大きな武器になった。争議団のすべてを撮ると言う藤田さんは、秋

田県・わらび座での交流会では、いっしょに風呂まで入り、私たちの姿を撮るなど、その迫力はすごかった。

森住卓さんは、自分と同年齢の人が、子育てをしながら闘っている姿に共感したのか、争議団の青年や、子どもたちの写真が多い。特に、雪の日、沖電気品川工場の前に立っている子ども二人と一緒の母親の姿は、争議のきびしさが表われていると、評判を得た。また、地方オルグへも同行し、争議を自らも体験し、それを写真と文章で発表した。争議団の家庭へもよく出かけ、それらをまとめ、いろいろな「写真展」へも出品し、「ゆるすな指名解雇」を訴えつけた。

「どの家庭へ取材に行っても暖かく迎えてくれた。決まったように、すきやきだったよ」と二人、沖電気争議団へ毎月カンパを寄せ、物品の差し入れをしながら、争議団を励まし続けてくれた二人。この写真集が、沖電気争議につながっているすべての人たちを、今後とも励ましつづけてくれることとしよう。働く者が、平和で安心してくらせるように……と。

一九八七年六月

松本謙司

(沖電気争議団)